

平成28年度 プロジェクト研究所業績報告書（中間報告）

プロジェクト名	新たな生活科学研究プロジェクト
研究所名	生活科学研究所(所長 現代生活学科 野津 喬 准教授)
設置開始	2015.4.1
設置終了	2018.3.31

■研究の進捗状況（研究員の活動実績含む）

【都市型スローライフ・プロジェクト】

本プロジェクトにおいては、日野の「地域資源」を活用して、まちをスロー（＝ゆっくり、じっくり、多様に）楽しむ場づくりに関する研究活動をすすめている。本年度は、「地域資源の活用研究」をテーマに、「3世代をつなぎ、住民主体の安心・安全の暮らしやすい街づくり」をめざし、各研究員の専門領域を活かして、市民・学生・教員協働の活動をおこなった。主な活動は以下の内容：

1) 地域活動（自治会活性化とまちづくり活動）の推進

住民主体で地域づくりを考え、実行していく「日野市地域懇談会」の活動に、研究員メンバーおよび学生が参画した。具体的には、「大坂上中地区懇談会」及び「二中地区懇談会」の活動に参加。地域ごとに異なる自治会活性化活動の推進に寄与した。

「大坂上中地区」では、地域住民主体の交流活動、障がい者の視点も加味した安全教育など、地域と密着した自治会やPTAの基盤を活かした三世代交流型地域活動を推進した。また、研究員と学生により製作された「大坂上中地区の立体模型図」が紹介され、住民が自分の居住地域の地域特性や地域資源を視覚的に把握し、その活性化を話し合う材料として活用された。

一方、「二中地区」では、地域住民と学生が一緒となってまちあるきを行い、地域の人が自らの地域の良さを発見して、愛着を感じるまちづくり活動に活かしていく「ブランニング・プロジェクト」を学生と市民が協働で構想。その成果物として、学生が地域マップの作成を行った。この活動を通じて、住民自身が主体的にまちを楽しむための新しいプログラムが生まれた。

2) 都市と地方をつなぐ活動の推進

当プロジェクトのもう一つの研究教育活動として、人口減少・超高齢化が急速に進む中山間地域の集落と都市(日野市)を結ぶ活動の可能性を探っている。具体的には、新潟県十日町市布川地区に活動拠点を置き、学生が現地に入って人と自然の豊かさを経験し、都市生活と自然生活を結ぶ価値を考え、都市型スローライフ・プロジェクトの活動に活かすことを考えている。本年度は、全部で6回の現地活動を行い、自然共生型暮らしの一連の流れを知り、また、超高齢化がすすむ地域社会のコミュニティ維持活動として、地域住民のつながりを途絶えさせないための地域の祭りに参画をして、学生の協働力を高めるとともに、今後の研究・教育活動拠点としての関係づくりを固めた。

【リサ・エネ カフェプロジェクト】

カフェ事業の廃棄物を発酵させてバイオガス（メタン）を製造することを目的とする。メタンは天然ガスや都市ガスの主成分であり、熱利用、燃料、発電が可能である。平成28年度はバイオガス製

造並びにガス中のメタンの定量を目指し、平成 27 年度に組み立てた実験装置を改良し、K 県 Y 市下水道センターから提供された活性汚泥を使用し、グルコースを供試材として 35℃の発酵実験を行った。

教職課程の授業内において、米の生産から収穫過程を認識するために、バケツ稲を育て、生産から収穫過程を体験した。さらに、地域における農業支援として、日野産大豆プロジェクトへ参加し、種付け、草取り、収穫、報告会の一連の作業に参加した。

日野市産業振興課と連携して学校給食に提供している農地の看板作製協力を本学学生がおこない、本学学生が作成した看板が掲示されている。

【健康と教育プロジェクト】

{日野ヘルスプロモーション} 研究では、「日野の健康食」の普及啓発の取組を進めた。「日野の健康食」は、昨年度、日野市健康課、日野市都市農業振興課、及び JA 東京みなみ、日野市女性農業者の会「みちくさ会」、日野市民を委員とする検討会で策定した。検討会にレシピ集作成委員会を設置し、全ての関係機関（者）が協働して、日常の健康な食生活に必要な様々な情報を総合的に提供する媒体として「日野の健康食」レシピ集を作成した。

1) JA 東京みなみが設置する日野農産物直売所で、利用者へのアンケート調査を行ったところ、野菜料理のレシピを希望する意見が多かった。文献（内閣府）から、国民が「食」に関する情報として、健康に役立つ・調理に役立つ（献立・料理・レシピ）情報を望んでおり、その情報は、新聞・雑誌・本等から得ている（メディアに次ぐ）としている。以上から、「日野の健康食」普及啓発のための情報誌を作成することを、今年度の目標とした。

2) 「日野の健康食」レシピを考案した。公衆衛生学研究室のゼミ生は管理栄養士専攻 6 名で、各人が 1 食の「日野の健康食」レシピの創作と試作を行った。みちくさ会を対象に栄養講習会を開催し、健康に役立つ適切な栄養素摂取につながるレシピの考案と試作を進めた。

3) 教育の関連として、ゼミ生の卒論研究のテーマに、“記述疫学研究：2000 年以降の日本の食環境”、“介入研究：地域住民を対象とした栄養計算講習会”を与え、レシピ集作成に関連した共同研究を行った。また、管理栄養士専攻 1 年生の健康管理論の授業で、「良い食習慣を獲得しよう」をテーマに特別講義を行った。

4) 教育支援として、中学校授業時における支援をおこなった。特に教科の中では家庭科授業における支援として、教職課程履修者を中心に実施した。

5) 地域中学校、教育委員会との連携のもと、延べ人数 30 名の学生が、中学校のマナー教室時の学校給食の配膳ならびに食事時のマナー指導をおこなった。

6) 地域における子どものための食育支援では、学生自らが、地域内の子ども関連施設において企画、運営、活動するとともに、地域の食育事業において、協力・支援をおこなった。

7) 渋谷キャンパスにて第 4 回日本食育学会を開催し、スーパー食育スクールの指定をうけている 4 校の栄養教諭、中学校校長を招いた食育シンポジウムをおこなった。

■現在までの達成度

【都市型スローライフ・プロジェクト】

1 年目においては「地域資源とその活用方法に関する基本調査」として、日野市の地域資源の発掘を行うとともに、「空き家活用」「子どものよりよい成長」「地域の自治会活動」「農的資源の活用」などを問題意識として現状把握を行った。また、各種フィールドワークを行い、学生の課題発見力、協

働力を高める活動を行った。2年目は、「地域資源の活用研究」をテーマに、日野市の地域資源を活用するための具体的な活動に取り組み、新たなライフスタイル創造とその受け皿となる社会構想を考えることができた。また、諸活動を通して、関係各位との関係づくりを行い、日野市との地域連携の協力関係を深めることができた。学生も、より主体的に地域活動の中に入り、協働力、構想力、実践力を高める活動に結ぶことができた。

【リサ・エネ カフェプロジェクト】

活性汚泥を使用し、グルコースを供試材として 35℃の連続発酵実験を行った。その結果、24 時間後には生成ガスの 80%が得られ、さらに 24 時間経過後には残りのガスが得られ、生成ガス総量は 6150 mL となった。そのガスをガスクロマトグラフ装置で定量したところ、98%がメタンであることが判明した。

学生に対する食農教育を推進することで、学生の食と農に関する意識を醸成することができた。

【健康と教育プロジェクト】

昨年は「日野の健康食」の概念を策定し、本年はその普及啓発のための総合的な情報誌「毎日の健康食生活 RECIPE」を作成し、目標を達成した。本誌には、みちくさ会の「旬野菜のおすすめ料理」33品のレシピ、及び、ゼミ学生の季節ごとの「日野の健康食」6食のレシピの他、日野市都市農業振興課の農業振興策と JA 東京みなみの野菜直売所情報、及び、公衆衛生学研究室から健康な食生活のための種々の情報（「日野の健康食」、健康日本 21（第 2 次）：栄養・食生活、厚生労働省「日本人の長寿を支える健康な食事」、健康の課題、食の課題、等）を掲載した。今後、この情報誌を用いて関係機関がそれぞれ普及啓発の取組を進める。

小中学校の食育ならびに教育支援として、学校給食時の児童生徒の指導をおこなったことにより、学生のコミュニケーション能力、学習意欲の向上につながった。また、学生自らが、食育に関連して積極的に活動を継続していることが、日野市第 3 次食育推進計画のコラム欄に掲載された。

■次年度以降の研究（見込み）

【都市型スローライフ・プロジェクト】

過年度実績を踏まえ、3 年目（最終年度）活動として、以下を行う。

1) 各研究員による地域活動の継続による学生協働型地域連携の推進と、プロジェクト終了後も継続できる地域との関係固め

2) 地域資源を活用した活動の発展（以下は予定）

1. プロジェクトから生まれた地域活動の発展的展開 2. 地方と都市の地域資源を結ぶスローライフ提案 3. 日野市立体模型図とそれを活用した教育活動

⇒これらを通して、日野市の地域資源の活用を推進し、これからの暮らしと社会の提案に結びたい。

【リサ・エネ カフェプロジェクト】

別の標準ガスを使用して、生成ガスの定量の精度を向上させる。発酵においては反応条件の変化（水添加量、攪拌の効果、容器容量など）によりメタン生成の改善に取り組む。また、発酵後も残留物が多いため、その処理方法として、水熱反応による糖化（バイオエタノール生成）反応を行う。その装

置の周辺部品を 29 年度予算で購入予定である。

学生が自ら食農体験ができる機会の提供を継続する。

【健康と教育プロジェクト】

1) 日野ヘルスプロモーションは、日野市の生活者（母子、働く人々、学生、高齢者、障害を持つ人々、在宅で療養中の人々、等）すべてが、健康の基盤である「食」を通じた取組を進めることとしている。今年度まで成人を対象としたが、来年度は、高齢者及び在宅で療養中の人々を対象とし、高齢者の虚弱「フレイル」、さらに、老年症候群に関連して、食を通じたヘルスプロモーションを進めるためのガイドライン「フレイル・老年症候群のための健康食ガイドライン」を作成する。

* フレイル：加齢とともに、心身の活力（筋力や認知機能など）が低下し、生活機能障害、要介護状態、そして死亡などの危険性が高くなった状態

* 老年症候群：高齢者に特有あるいは高頻度に見られる症候で、原因が多岐にわたるため型どおりの治療が必ずしも効果があるわけではなく、慢性的な経過をたどり、また対応しなければ予後にも影響する症状・症候

2) 本年度も、地域における学生主体の食育ならびに教育支援を継続する。

■ 研究活動における成果

(1) 研究成果(雑誌、学会発表、図書等)

常磐祭（日野）においてプロジェクト研究について発表を行ったほか、以下の成果を上げている。

【都市型スローライフ・プロジェクト】

・ 市民と学生協働による地域マップ「二中地区プランニング・プロジェクト」の作成・配布・市民活動での活用

・ 本プロジェクトの地域活動に基づく論考（須賀由紀子、地域コミュニティ形成における多世代交流の意義と大学の役割、実践女子大学生生活科学部紀要第 54 号、2017）

【リサ・エネ カフェプロジェクト】

菅野元行、実践女子大学日野キャンパス エコキャンパスマップ、(2017)

白尾美佳：大人のための食育講座「食の色彩の不思議」 日野市七つ塚ファーマーズセンター
Sekizawa K, Hiraoka A, Shirao M:Suppressive Effects by Antioxidants on Bleomycin-Induced Chromosome Aberrations in Cultured Human Lymphocyte Cells, 金属の関与する生体反応シンポジウム

【健康と教育プロジェクト】

「日野の健康食」普及啓発のための総合的な情報誌「毎日の健康食生活 RECIPE」を作成した。

白尾美佳：講演「食育のすすめ」日野市立南平小学校学校保健委員会

白尾美佳：東日本大震災被災地域の避難所における食生活調査、第 4 回日本食育学会発表

白尾美佳：「日本型の味覚教育をどう普及させていくか」 日本食育学会 シンポジウム 2016 明治大学

白尾美佳：講演「知っておきたいシニア世代の栄養」、日野市中央公民館

白尾美佳：「文部科学省 平成 28 年度スーパー食育スクール事業ならびに福島県学校における食育推進プロジェクト」食育講演会「学校給食が教育に果たす役割」福島県三春町

(2)学生・生徒の教育及び支援に関する還元

【都市型スローライフ・プロジェクト】

日野市地域懇談会に学生が参加して、市民の話し合いやグループワークに加わり、アイデア出しに参画したほか、発表も精力的に行った。市民の方と一緒にまちあるきを行い、地域資源の発見・活用をともに考え、実践的な学びができた。みなさんの意見を聞きながらのプランニングマップの作成・実地活用などの活動を通して、市民の方々とふれあい、異世代間のコミュニケーションを深め、生活者の視点、これからの暮らしと社会に必要な視点を得た。また、本プロジェクトによる地域活動から小学校のボランティア活動への学生参加が促されたり、日野市立体模型図の市民活動への活用により、大学での学びと地域の暮らしが直接つながることも実感されるなど、学生の日ごろの学びと現場がつながり、問題意識の醸成や実践力を培う効果があった。

【リサ・エネ カフェプロジェクト】

現代生活学科1年生科目「フィールドリサーチ」、2年生科目「プロジェクト演習 a」、3年生科目「ゼミナール」にて当プロジェクトの概要を説明した。しかしながら、当学科には理科を苦手とする学生がほとんどで、環境科学・エネルギー科学の研究を深めたいという学生が極めて少ない。そのため、学生が当プロジェクトに参加するまでには至っていない。一方、本予算でガスクロマトグラフ装置を購入することができたことから、ゼミ生にも測定方法を指導し、測定実習を行うことができた。一方、メタン生成が確認できたことから、当プロジェクトの内容を「エコキャンスマップ」に掲載することができた。継続して学生の教育にも還元できるよう尽力したいが、発酵実験を本格化させるためには、研究室(3館)内にガラス器具の洗浄場所が無い場合、適切な実験スペースの確保が求められる。

教職課程の授業内において、米の生産から収穫過程を体験したことにより、学生は教育実習で子どもたちの指導をスムーズにおこなうことができた。さらに、日野産大豆プロジェクトへの参加は、東京都ならびに日野市に栄養士として就職した本学卒業生も参加していることから、卒業生との交流にもつながり、学生の専門職に対する職業観への醸成、学習意欲にもつながった。

【健康と教育プロジェクト】

「毎日の健康食生活 RECIPE」を用いて、学生・生徒の健康管理や栄養と食生活についての学修を進める。

小中学校の食育ならびに教育支援として、学校給食時の児童生徒の指導をおこなったことにより、学生のコミュニケーション能力、学習意欲の向上につながった。さらに、学生自らが積極的に地域における食育活動を行ったことで、学生の企画力、積極性、学習意欲の向上がみられた。